

タスマニアの人たちとの交流を通して学んだこと

香川県立三木高等学校

文理科 2年 三崎の杏

今回のオーストラリアタスマニア派遣事業を通して、私は2つのことを学びました。

1つは日本文化の良さを改めて知ることが出来たことです。現地のプロスペクトハイスクールで、私は絵手紙を紹介し、体験してもらいました。絵手紙をしようと思ったのは、私の祖母が小豆島に住んでおり、趣味で絵手紙をやっていたからです。小さい頃から小豆島に帰省するたびに、祖母と一緒に絵手紙を描いていました。絵手紙は下手でも誰かに喜んでもらいたいという気持ちを伝えるために描きます。はがきに好きな「絵」と「文字」を描いて真心を込めて送る「手紙」です。現地の子供たちはとても楽しそうに取り組んでくれて、「日本語で自分の名前を書きたいから、教えてほしい。」と尋ねてくる子やチャイムが鳴ってもずっと描いてくれている子など、みんなとても意欲的に取り組んでくれました。最後にはそれぞれ、思い思いの絵手紙が完成し、子供たちのとびっきりの笑顔を見ることができました。絵手紙を通して子供たちと繋がることができたと感じ嬉しくなりました。祖母が大切にしていた日本文化に、国を超えて繋がれる素晴らしさがあることを知り、日本文化の良さに気づくことが出来ました。

2つ目は、自分の意見を持つことと、常に疑問を抱き本当のことを知りたいという気持ちを持つことです。私のホームステイ先には15歳のベスという女の子がいました。彼女は私の2つ年下ですが、世界各国の政治にとっても関心があり、夜遅くまで政治の話を聞かせてくれました。私は勉強不足もあり、自分の意見をベスに伝えることが出来ませんでした。学校でも同年代の子供たちが自分の意見をしっかりと持っており、何に対しても「なぜ」と常に疑問を持って質問していました。人の話になぜだろうと探求心を持って聞くことは知識の向上にもつながり、自分自身を成長へと導いてくれると思います。また疑問に思ったことが自由に発言できる雰囲気がタスマニアの高校生の中にはありました。私も自分の意見をしっかりと伝えることのできる人になりたいと思います。そしてそのような雰囲気になるよう率先して働きかけなければならぬと感じました。

この素晴らしい体験を通して学んだことを今後の人生に活かしていきます。そして周りに対しても発信できるような人材になっていきます。多くの人の支えに感謝いたします。本当にありがとうございました。



▲7月29日 絵手紙を作成している様子